

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「チャンス・チャレンジ・チェンジ」をキーワードとして、生徒全員が就労を通じた社会的自立をし、生き生きと暮らしていける人材を育成する学校をめざす。
 ☆「チャンス」＝人との出会いを大事にするとともに、本校の教育活動や生徒の良さを広く発信する。
 ☆「チャレンジ」＝自己達成感を高められるように生徒の個別の実態に応じた支援を行いつつ、未経験の課題に対して挑戦する力をつけるよう支援する。
 ☆「チェンジ」＝互いの違い・よさを認め合う仲間づくりにより自己肯定感を高め、めざすべき自分・目標を見つけて社会へ巣立つことができるよう支援する。

2 中期的目標

1 生徒本人を中心に据えた「支援と指導・相談」体制の整備と安全で安心な学校づくり

- (1) 目標設定～評価のPDCAサイクルを実践し、生徒に関する会議・研修会等を行い、チームで実態把握に努めながら、生徒の成長へつなげる。
- (2) 課題の発見・理解や、成功体験を味わう過程を大事にし、自己肯定感を高めながら、課題に対して挑戦する意欲や態度が身につくよう支援方法を工夫する。
- (3) 相談しやすい環境設定やその機会を計画的に準備する。また、在校時から関係機関との連携体制を深め、個のニーズに応じた相談体制を構築する。
- (4) 安全で安心な学校生活を送ることができる学校づくりを行う。

※生徒向け学校教育自己診断「自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている」R5:93% (H30:72%, R1:68%, R2:84%)

生徒向け「相談できる先生がいる」R5:96% (H30:71%, R1:73%, R2:87%)

2 就労を通じた社会的自立をめざす確かな学力の育成と高等支援学校教職員としての資質向上

- (1) 使いこなせる学びの道具としてのタブレット端末も活用しながら、主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行うとともに、高等支援学校教員としての資質の向上に努める。
- (2) 新学習指導要領にもとづいて編成した教育課程を令和3年度から先行実施する。その際、「MURANO キャリアプラン」として、社会に開かれた教育課程、教科がつながるシラバス推進を行う。
- (3) 教科の個別の指導計画の目標・手立て・評価の作成システムを構築する。

※教職員向け「主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行っている」R5:100% (R1新規:87%, R2:96%)

※「授業担当教諭の特別支援学校教諭免許保有率」R5:70% (H30:44%, R1:50%, R2:55%)

3 共生社会作りへの参画と情報発信

- (1) 企業就労をかなえるために、実習先・雇用先の新規開拓・確保を行うとともに、効果的なマッチングを行いながら、就労率・定着率の向上に努める。
- (2) 支援教育のセンター的機能の発揮として、共生推進教室設置校を含む学校園に対して、本校の教育実践を広める。
- (3) 地域等との交流・連携を行う。特に、楽器指導支援プログラムにより継続的な演奏指導を受けるとともに演奏会への出演をめざす。あわせて、生徒が活躍できる機会の創出を図る。学校経営推進費(R3「むらの『Smile & Music』プロジェクト」)を活用して、表現活動の機会拡充、音楽活動を通じた自己表現力の習得・伸長、地域連携の充実をめざす。

※生徒向けアンケート：R5 「自己肯定感」、「達成感」、「就労意識」などの項目が、それぞれ80%以上

※校内演奏会：R5 1回以上、校外演奏会：R5 1回以上

※活動報告：R5 年に5回以上発信

- (4) 本校の取組みと魅力が鮮明に伝わるように、創意工夫を行いながら積極的な広報を行う。

※「卒業1年後の職場定着率」R5:100% (H30:100%, R1:92%, R2:92%)

※生徒向け「本校には達成感を味わうことができる活動がある」R5:90% (新規)

4 学校の組織力向上

- (1) 初任者や経験年数の少ない教職員に対する人材育成とともに、教職員が相互に資質を高め合う同僚性の高い職場をめざす。
- (2) 研修や学校視察に参加して学んだことをいかして実践するとともに、校内で伝達し、組織力の向上に役立てる。
- (3) 組織改編により業務の精選と働き方改革に取り組み、教職員間の協議・研修時間を確保しながら在校等時間の短縮、教職員の心身の健康の維持を推進する。

※教職員向け「初任者を含む教職経験1～2年めの者及び本校1年めの教職員に対する育成・支援が行われている」R5:70% (R2新規:47%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><全般></p> <p>・本年度は、全体的に回収率が低下し、特に保護者の回収率が例年に比べて低下した。これは、アンケート実施方法を変更したため、アンケート未提出者の特定ができず、再周知が確実にできなかったことが主な原因であると考えられる。</p> <p>来年度は、アンケートの未回答者に効果的に再周知ができるよう、配布方法を工夫するなどして、回収率の向上を図りたい。</p> <p><結果と考察></p> <p>前年度より肯定率が10ポイント以上上昇した項目を「増」、下降した項目を「減」とカウントした。</p> <p>【本校生徒】</p> <p>・「増」：0、「減」：0</p> <p>・全体的に肯定率が高い。来年度以降もこの水準を維持しつつ、全体の肯定率が上昇するような取組みを探りたい。</p> <p>・No.10「自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている。」については生徒への周知方法に工夫の余地があると考えられる。</p> <p>・No.7「いじめ」やNo.4「進路」に関する項目については、少数であっても否定的な回答があることを受け止め、対応していく。</p> <p>【本校保護者】</p> <p>・「増」：0、「減」：0</p>	<p>第1回 令和3年7月12日(月)</p> <p><主な内容></p> <p>・委員紹介、事務局紹介</p> <p>・報告：意見書の提出について、R2/R3学校経営計画、R3授業時間割・教育課程について、卒業生の進路状況、教科書について、「むらのSmile & Musicプロジェクト」について、授業参観アンケート集計結果</p> <p><主な意見></p> <p>・離職は悪ではない。自分に合った職を探し働き続けることが大切。</p> <p>・生徒たちにとって仕事とは、「笑顔で生きるための糧」であってほしい。</p> <p>・リモートワークは、働く障がい者にとって大きな障壁ともなる。PCやタブレットの画面からは、顔色や素振りなどで発信される多様な情報を的確に捉え対処することは難しい。</p> <p>・コロナ禍において31名就労の実績は素晴らしいと感じる。</p> <p>・本人の変化に一番気付きやすいのは会社の担当者。課題の早期発見早期対応の実現に向けて、担当者と保護者とが適宜連絡を取り合えるような円滑な関係性を構築することの重要性を強く感じる。</p> <p>・生徒たちはタブレットやPCなどに触れる機会が多い反面、トラブルに巻き込まれる危険性も高い。活用とともに、安全面を含めた学習の充実に期待している。</p> <p>・授業におけるタブレットの効果的な活用を期待する。</p> <p>・体験学習の重要性をより感じる。</p>

府立むらの高等支援学校

- ・全体的に肯定率が高い。来年度以降もこの水準を維持しつつ、全体の肯定率が上昇するような取組みを探りたい。
- ・少数であっても否定的な回答があることを受け止め、改善を図っていく。

【共生推進教室生徒】

- ・回答の母数が少ない（15件）ので、変動幅が大きくなっているが、肯定率の低い項目を中心に、改善に向けた取組みを進めていく。

・「増」：1

- No.2 『むらの』の校外学習などの行事は楽しい：100% +16.7ポイント
→ コロナ禍で昨年は実施できなかった行事が本年度は実施できたことが要因のひとつであると考えられる。

・「減」：2

- No.1 「火曜日に『むらの』へ行くのが楽しい」：66.7% -16.7ポイント
→ 生徒には楽しそうな様子が見受けられるが、設置校との環境の違いが影響しているかもしれない。設置校教員との連携・情報共有を図っていく。

- No.11 『むらの』では地震や火災などが起こった場合、どうしたらよいかを分かりやすく知らされている」：66.7% -27.8ポイント

- 共生推進教室生との合同避難訓練は、本アンケート終了後の12月に実施したためだと考えられる。訓練の実施時期、事前学習の取組みについて工夫をしていきたい。

・肯定率70%以下の項目

- No.5 『むらの』には、相談できる先生がいる」：66.7%
→ 本校（むらの）での時間的な制約のため、相談する機会が少ないことが主な要因だと考えられる。設置校教員との連携・情報共有を図っていく。

【共生推進教室保護者】

- ・回答の母数が少ない（5件）ので、変動幅が大きくなっているが、全体的に肯定率が高い。個別の分析は難しいが、寄せられた意見を参考に、改善に向けた取組みを進めていく。

【本校教員】

- ・全体的に肯定率が高い。来年度以降もこの水準を維持しつつ、全体の肯定率が上昇するような取組みを探りたい。

「増」：3

- No.1 「本校では、学校祭・校外学習・宿泊研修などの学校行事は、生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫を行っている」：97.1% +10.5ポイント

- 各行事の担当者を中心に、どの部署においても、丁寧に行事を企画・立案・実施したことが要因であると考えられる。

- No.12 「私は、授業見学に複数回行った」：80.0% +11.1ポイント

- 公開授業週間（年2回）に、授業見学を促したことが要因の一つであると考えられる。

- No.13 「本校は、初任者を含む教職経験1～2年めの者及び本校1年めの教職員にに対する育成・支援が行われている」：62.9% +16.2ポイント

- 対象者に、公開授業週間（年2回）に授業見学を促したこと、ミニ研修会を実施したこと、専門学科体験会を実施したことなどが要因あると考えられる。しかし肯定率自体は70%以下であるので、本年度の取組みを継続しつつ、さらに工夫をしていく。

以上

- ・朝市での農作物の販売の実現に向けての可能性を探っていきたい。
- ・近隣の農地を開放しての田植えや稲刈り体験なども検討されてはどうか。

第2回

令和3年10月11日（月）

<主な内容>

- ・報告：授業参観アンケート集計結果、R3学校経営計画進捗状況、R3学校教育自己診断について

<主な意見>

- ・授業参観アンケート結果を見ても、子ども達や保護者が安心している様子が読み取れる。開校以来、準備し、積み上げてきたことが実を結び安定期に入ったのではないかと思う。
- ・学校教育自己診断の意見集約にグーグル・フォームを用いることは回答側も答えやすくなり、集中もしやすくなるので良い。
- ・前回の会議で提案いただいた、地域と連携した学習として、稲刈り学習に来てもらい、普段食べているお米が実際にどのように育てられているのかを知ってもらった。この会議からの発信、意見が学校の前進に繋がっている。
- ・学校と企業側が日々の生活の中で連携できていることが大切ではないかと思う。
- ・寄り添って相談に乗り、定着支援に取り組むためには支援の引継ぎが必ず必要になるので、今後に期待したい。
- ・むらのではタブレットを「授業ノートとして使っている」と子どもが当然のように話している。先進的でよい。
- ・保護者としては卒業生の保護者の生の話を聞きたい。また子ども達には卒業生の実話の話を聞かせたい。

第3回

令和4年1月28日（金）【書面開催】

<主な内容>

- ・協議：令和4年度 学校経営計画「めざす学校像」及び「中期的目標」
- ・報告：学校教育自己診断集計結果、授業参観アンケート集計結果、令和3年度 学校経営計画（評価案）

【協議】

令和4年度 学校経営計画「めざす学校像」及び「中期的目標」

→6名の委員全員が承認

<主な意見>

- ・今後の多様性時代への臨機応変な対応が学校現場には求められる。ピンチをチャンスと捉えて、むらの高等支援学校の更なる発展を期待している。
- ・就労前に働く理由、目標を見つけ、一人でも多くの生徒が自分に合った就労先を見つけ、長く働き続けられることを願う。
- ・企業への支援力向上を目指す研修等も実施すると良い。
- ・「チャンス・チャレンジ・チェンジ」は、様々な人と交流しながら、自分や他人を受け入れ、認め合いながら、目標を見つけて頑張れるような内容なので、来年度も期待している。

【報告】

<主な意見>

学校教育自己診断：

- ・生徒の回答は、気持ち素直に結果に表れている。
- ・進路に関する項目の回答で、3年生の否定的回答の率が他学年より高く、卒業後の不安が表れている。丁寧な個別面談等の対応が大切になる。
→3年生の進路の不安は、社会に出た時のイメージができていないからだと考えている。今年度は就労をしている卒業生とその会社の担当者による生徒向け学習会を行い、卒業後のイメージを作れるようにした。次年度は、開催時期を検討する。
- ・開催できた行事を通じて生徒の成長が見られ、行事の大切さにも気付かされた。

授業参観アンケート：

- ・保護者は授業参観を通じて子どもたちの成長を目の当たりにすることで喜びを感じていると思う。先生方の一人ひとりへの寄り添いと個に応じた指導の成果が表れている。
- ・保護者は好意的に学校の取り組みを理解している。
- ・家庭で見られない顔を見ることができたとの意見があり、改めて授業参観の重要性を感じた。

令和3年度 学校経営計画（評価案）

- ・「達成感を味わうことができる活動がある」の項目は、コロナ禍の中でも生徒の肯定的回答が91%と高く、先生方が積極的に生徒に関わられている証であり、高く評価する。
- ・コロナ禍でも最大限にできる項目を着実に目標達成に向けて努力されていることがわかる。
- ・教職員の心身の健康維持、同僚性の高い職場づくりにおいて、具体的に何か実施する予定はあるか。
→会議延長がある場合は、管理職に連絡をいれるなど、勤務時間を意識した働き方を職場に浸透させる。職場全体で、業務の効率化や業務整理への意識をもって働くことを呼びかける。

府立むらの高等支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

<※学校教育自己診断は、【生】：生徒向け、【保】：保護者向け、【教】：教職員向け>

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 生徒本人を中心に据えた「支援と指導・相談」体制の整備と安全で安心な学校づくり	<p>(1) 目標設定～評価の PDCA サイクルを実践し、生徒に関する会議・研修会等を行い、チームで実態把握に努めながら、生徒の成長へつなげる。</p> <p>(2) 課題の発見・理解や、成功体験を味わう過程を大事にし、自己肯定感を高めながら、課題に対して挑戦する意欲や態度が身につくよう支援方法を工夫する。</p> <p>(3) 相談しやすい環境設定やその機会を計画的に準備する。また、在校時から関係機関との連携体制を深め、個のニーズに応じた相談体制を構築する。</p> <p>(4) 安全で安心な学校生活を送ることができる学校づくりを行う。</p>	<p>(1) ア ・校内用事故・ヒヤリハット報告書を作成し、対応・原因・防止策を共有し、再発防止に努める。また、着任者を含めて前年度分の共有を図る。</p> <p>(2) ア ・各場面において、担当者が個別の教育支援計画・指導計画を意識して取り組むとともに、生徒に目標が明確になる促しや手立てを工夫する。</p> <p>イ ・職場実習の評価を、学年団、授業担当者が各種目標設定・指導にいかす。職場実習の評価と職業に関する教科の評価を含めて、実習先のマッチングの参考とする。</p> <p>(3) ア ・SSW・福祉医療関係人材・関係機関と連携する。生徒からの相談を待つのではなく、積極的に関わり、相談されるように全教職員が努める。</p> <p>イ ・性に関する指導を系統的・継続的に進める。</p> <p>(4) ア ・安全を生徒自ら確保できるよう主体的に行動する態度を育成するため、予告なし避難訓練に取り組む。災害発生時緊急連絡カードも活用。</p> <p>イ ・教育活動における生徒の安全確保、食物アレルギー一事故防止等に努める。</p>	<p>(1) ア ・事故・ヒヤリハット報告書を作成し、随時共有する。前年度分の共有も図る。</p> <p>(2) ア ・【生】「自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている」 肯定率 87%[84%]</p> <p>イ ・【教】「生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」 90%[87%]</p> <p>(3) ア ・【生】「相談できる先生がいる」 90%[87%]</p> <p>イ ・【教】「性に関する指導は、系統的・計画的に行われている」 95%[93%]</p> <p>(4) ア ・【生】「地震や火災などがおこった場合、どうしたらよいかを学べた」 95%[93%]</p> <p>イ ・食物アレルギー事故 0 件[0 件]</p>	<p>(1) ア ・本年度は4件のヒヤリハットが生じ、報告書を作成した。内容は共有されており、再発事案はない。 【○】</p> <p>(2) ア ・【生】肯定的評価：78% (▼5.1pt) 【△】 ※生徒への周知方法を工夫していきたい。</p> <p>イ ・【教】肯定的評価：91% (+4.8pt) 【○】</p> <p>(3) ア ・【生】肯定的評価：84% (▼2.7pt) 【△】 ※生徒の実態を共有する機会を増やし、早い段階で積極的に声をかけるように努めていきたい。</p> <p>イ ・【教】肯定的評価：97% (+3.8pt) 【○】 ※外部講師による「いのちの教室」開催するなど、年間計画に基づき指導した。</p> <p>(4) ア ・【生】肯定的評価：96% (+2.1pt) R3. 6月、12月、R4. 1月に「予告なし避難訓練(地震)」を実施した。また、R3. 4月に火災訓練、5月に防災学習、6月に防犯学習・訓練、9月に880万人地震避難訓練を実施した。 【○】</p> <p>イ ・食物アレルギー事故：0 件 【○】</p>
2 就労を通じた社会的自立をめざす確かな学力の育成と高等支援学校教職員としての資質向上	<p>(1) 使いこなせる学びの道具としてのタブレット端末も活用しながら、主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行うとともに、高等支援学校教員としての資質の向上に努める。</p> <p>(2) 新学習指導要領にもとづいて編成した教育課程を令和3年度から先行実施する。その際、「MURANO キャリアプラン」として、社会に開かれた教育課程、教科がつながるシラバス推進を行う。</p> <p>(3) 教科の個別の指導計画の目標・手立て・評価の作成システムを構築する。</p>	<p>(1) ア ・1年生は生徒1人1台タブレット所有、2～3年生は、必要なアプリ等を追加する。タブレット活用が効果的な場面では積極的に活用する。タブレット所有におけるモラル教育を行う。</p> <p>イ ・主体的・対話的で深い学びの実現をめざして、一層工夫のうえ授業を行う。</p> <p>イ ・免許認定講習を活用しながら、特別支援学校教諭免許保有率の増加につなげる。</p> <p>(2) ア ・今年度から1年先行の新教育課程を全学年で一斉実施し、「MURANO キャリアプラン」に基づく、社会に開かれた教育課程、教科がつながるシラバス推進を行う。</p> <p>(3) ア ・教科の個別の指導計画の目標・手立て・評価の作成方法について、必要な改善を行いながら、校内ネットワーク上での修正・決裁等が安定運用となるように作成システムを構築していく。</p>	<p>(1) ア ・タブレットに係る取組みを進める。2～3年生は、必要なアプリ等を購入するなどして、タブレットに追加する。</p> <p>イ ・生徒向け情報モラル教育・研修を実施する。</p> <p>イ ・特別支援学校教諭免許保持率 60%[55%]</p> <p>(2) ア ・「MURANO キャリアプラン」に基づく、新教育課程を全学年で一斉に実施する。</p> <p>(3) ア ・【教】「教科の個別の指導計画の目標・手立て・評価の作成において、現行の体制は役立っている」 83%[80%]</p>	<p>(1) ア ・課題の受取・提出・共有など「ロイロノート」等を活用し、授業を行った。 【○】</p> <p>イ ・特別支援学校教諭免許保持率：62% 【○】</p> <p>(2) ア ・タブレット端末や付属品の購入が完了し、全学年で、1人1台端末が実現した。R3. 7月に外部講師による SNS 講習(情報モラル)を実施した。 【○】</p> <p>イ ・特別支援学校教諭免許保持率：62% 【○】</p> <p>(2) ア ・職業共通教科、情報、音楽の時数を増やし、「行事を核としたつながる授業展開」の授業プランを各教科で実践した。 【○】</p> <p>(3) ア ・【教】肯定的評価：74% (▼5.7pt) 【△】 ※本年度から運用した個別の指導計画の電子回覧に慣れないため、煩わしさを感じたことが考えられる。また、出力エラーなどが発生し、システムへの信頼度が十分に得られなかった。システムの安定稼働に引き続き取り組む。</p>

府立むらの高等支援学校

<p>3 共生社会作りへの参画と情報発信</p>	<p>(1) 企業就労をかなえるために、実習先・雇用先の新規開拓・確保を行うとともに、効果的なマッチングを行いながら、就労率・定着率の向上に努める。</p> <p>(2) 支援教育のセンター的機能の発揮として、共生推進教室設置校を含む学校園に対して、本校の教育実践を広める。</p> <p>(3) 地域等との交流・連携を行う。特に、楽器指導支援プログラムにより継続的な演奏指導を受けるとともに演奏会への出演をめざす。あわせて、生徒が活躍できる機会の創出を図る。学校経営推進費を活用して、表現活動の機会拡充、音楽活動を通じた自己表現力の習得・伸長、地域連携の充実をめざす。</p> <p>(4) 本校の取組みと魅力が鮮明に伝わるように、創意工夫を行いながら積極的な広報を行う。</p>	<p>(1) ア ・実習・雇用先の開拓・確保を実施する。</p> <p>イ ・卒業生進路先へのアフター訪問を継続的に実施して定着支援を行う。</p> <p>(2) ア ・共生推進教室への相談支援を実施する。必要に応じて Web 会議システムを利用する。</p> <p>イ ・研究会等の研修・見学を受け入れ、授業見学も併せながら、本校の教育実践を広める。</p> <p>ウ ・小学校にもオープンスクールの案内をする。</p> <p>(3) ア ・地域と連携した楽器指導支援プログラムにより、生徒が継続的に演奏指導を受ける取組みを行い、1年後には演奏会への出演をめざす。</p> <p>・生徒が社会の一員としての実体験ができるように天の川カフェの実施とともに、販売学習や活躍できる機会の確保に努める。</p> <p>イ ・生徒の表現活動の取組みが充実したものとなるように学校経営推進費を獲得し、事業計画の内容を実施する。</p> <p>ウ ・大学等を含め他校との交流を実施する。</p> <p>(4) ア ・主に学校 WEB は外部への情報提供手段、むらの安心メールは内部（保護者）への情報提供手段として活用する。</p> <p>イ ・隔月の校区コミュニティ協議会に参加し、広報チラシを配付して、本校の取組みを紹介する。</p>	<p>(1) ア ・必要な開拓・確保を実施する。</p> <p>イ ・卒業1年後の職場定着率 90%以上を維持する。[92%]</p> <p>(2) ア ・共生推進教室の相談支援を実施する。</p> <p>イ ・研究会等の研修・見学を受け入れる。</p> <p>ウ ・小学校からも参加があるように取り組む。10名[コロナ禍で案内できず]</p> <p>(3) ア ・楽器指導支援プログラムにより生徒が1年間継続して演奏指導を受ける取組みを新規に実施する。</p> <p>・【生】「本校には達成感を味わうことができる活動がある(職場実習、オープンスクール、学校祭など)」70%[新規]</p> <p>イ ・生徒アンケートを実施し、「自己肯定感」、「達成感」、「就労意識」などの項目を設定する。各70%以上[新規]</p> <p>・校内演奏会を1回以上、校外演奏会を1回以上実施する。</p> <p>・各専門教科において新商品の開発を完了し、演奏会で販売する。</p> <p>ウ ・他校との交流を促進する。大会参加以外の交流を3校[1校]</p> <p>(4) ア ・【教】「外部への情報提供手段としてホームページが活用されている」85%[82%]</p> <p>イ ・校区コミュニティ協議会に毎回参加して、広報チラシを配付し説明する。100%[100%]</p>	<p>(1) ア ・新規実習先：40件 【◎】 ※名刺交換会やイベントをきっかけにして学校見学にお越し頂き、実習の受入を承諾していただくなど、新規開拓を実施した。開拓数としては例年並みだが、コロナ禍で実習受入の中止など、企業の受入方針が厳しいなか、例年並みの数を確保することができたのは大きな成果であった。</p> <p>イ ・卒業1年後の職場定着率：94% 専任者によるアフターフォローを実施した。 【○】</p> <p>(2) ア ・週1回の本校への登校の際に、担当者間で情報共有し、障がい特性に応じた支援の方法や福祉サービスに関する情報提供などの相談支援を実施した。またSSWと連携し、個別の相談も設定した。 【○】</p> <p>イ ・府立人研の授業見学、他府県教育委員会の見学などを受け入れた。なお行政機関や企業の学校見学も積極的に受け入れている。 【○】</p> <p>ウ ・コロナ禍が継続したため、小学校には案内はできなかった。 【一】</p> <p>(3) ア ・R3.6月から週に1回、楽器指導支援プログラムによる指導を受け、演奏技術が向上した。R4.3月に校内中間発表会を開催した。 【○】</p> <p>・【生】肯定的評価：91%（新規） 【◎】 ※新規項目であるが、生徒の達成感は予想より高いことが確認できた。</p> <p>イ ・校外演奏会（R3.11月予定）後にアンケートを実施する予定だったが、中止となったため、アンケートが実施できなかった。 【一】</p> <p>・R4.3月に校内中間発表会を実施した。R3.11月に予定していた校外演奏会はコロナ禍で中止となった。 【○】</p> <p>・農園芸：ビニールハウスでの栽培、窯業：新しい窯を使って新色のテスト、木工：精密な溝ほり加工、などにより新商品を開発した。R4.3月の校内中間発表会において販売を実施した。 【○】</p> <p>ウ ・コロナ禍により、積極的な交流ができなかった。地域の小学校1校とのオンライン交流（4日間）を実施した。 【一】</p> <p>(4) ア ・【教】肯定的評価：91%（+9.2pt） 【◎】 ※本年度の学校ブログの掲載予定記事数は69件[昨年度：65件]。むらの安心メールは保護者への緊急連絡手段として、常に配信できる態勢をとったが、発信実績は1件（交通遮断）であった。</p> <p>イ ・校区コミュニティ協議会に毎回参加し、本校の教育活動を紹介した。 100% 【○】</p>
--------------------------	---	--	--	--

府立むらの高等支援学校

<p>4 学校の組織力向上</p>	<p>(1) 初任者や経験年数の少ない教職員に対する人材育成とともに、教職員が相互に資質を高め合う同僚性の高い職場をめざす。</p> <p>(2) 研修や学校視察に参加して学んだことをいかして実践するとともに、校内で伝達し、組織力の向上に役立てる。</p> <p>(3) 組織改編により業務の精選と働き方改革に取り組み、教職員間の協議・研修時間を確保しながら在校等時間の短縮、教職員の心身の健康の維持を推進。</p>	<p>(1) ア ・初任者を含む教職経験1～2年めの者及び本校1年めの教職員に対する育成・支援に積極的にあたる。各自、教職員間の授業見学を複数回行い、育成対象者の授業を含める。支援教育ミニ研修会等、育成対象者向けの研修を行う。</p> <p>イ ・教職員対象人権研修を行う。</p> <p>(2) ア ・近畿特別支援学校知的障害教育研究大会に3名以上参加する。</p> <p>イ ・外部研修等の報告を、職員朝礼等を用いて共有を行い、組織力の向上に役立てる。</p> <p>(3) ア ・組織改編により令和3年度から始める新校内組織について、必要な調整・改善を年間を通して行う。</p> <p>イ ・はよかえろう DAY における退勤時間の徹底、自動応答電話の設置、スマートフォンの増台等の工夫を行いながら働き方改革に取り組む。</p>	<p>(1) ア ・【教】「初任者を含む教職経験1～2年めの者及び本校1年めの教職員に対する育成・支援が行われている」 60%[47%]</p> <p>・【教】「私は授業見学を複数回行った」 75%[69%]</p> <p>・同育成対象者向けの研修を2回以上行う。</p> <p>イ ・人権研修を2回行い、その内1回は同和問題を扱う。</p> <p>(2) ア ・教育研究大会に3名以上参加する。 [非開催]</p> <p>イ ・外部研修等の報告・共有を行う。</p> <p>(3) ア ・校内組織について、必要な調整・改善を年間を通して行う。</p> <p>イ ・自動応答電話を新規に設置。 ・スマートフォンを3台配置[1台]</p>	<p>(1) ア ・【教】肯定的評価：63% (+16.2pt) 【◎】 ※対象者に、公開授業週間での授業見学を促した。またミニ研修会や専門学科体験会を実施するといった取組みの実施により、R2実績より+16.2ptとなった。</p> <p>・【教】肯定的評価：80% (+11.1pt) 【◎】 ※職員朝礼や職員会議で公開授業週間の実施を周知し、授業見学を促した。</p> <p>・新転任者を対象として、進路指導・自立活動などをテーマに研修を5回実施したほか、座談会を2回、専門学科学習内容体験会を4回実施した。 【◎】</p> <p>イ ・4月（障がいのある生徒・保護者への支援について）と9月（同和問題）を実施した。 【○】</p> <p>(2) ア ・オンライン開催であったが、4名が参加した。 【○】</p> <p>イ ・オンラインによる研修が多かったため、複数で受講することにより、共有した。 【○】</p> <p>(3) ア ・課題を抽出・整理し、R3.12月に次年度に向け、1人担任制や4分掌体制の継続などの方向性をまとめた。 【○】</p> <p>イ ・自動応答電話は現在申請中。スマートフォンは契約の関係からR4年度に配置予定。 【－】</p>
-----------------------	--	---	--	---